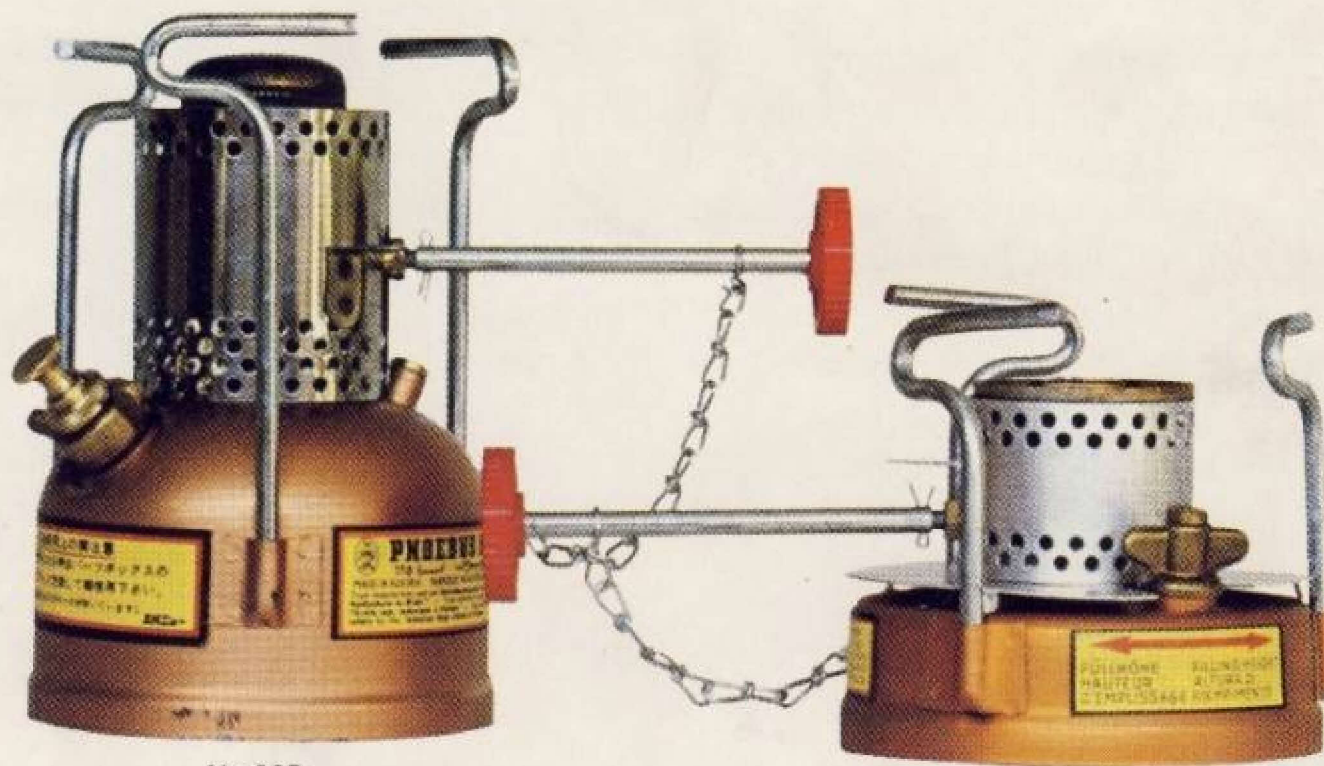


ホエーブス修理マニュアル

(PHOEBUS Repair manual)



No.625

No.725

「目 次」

分 解 図	4
修理に必要な工具	5
故障とその修理方法	6
① 燃焼中に炎が大きくなったり、小さくなったり、時々消えたりする	6
② バーナーヘッドとタンクの接合部からガスが漏れ、引火する	7
③ ハンドル基部からガスが漏れて引火する	8~9
④ 使用中安全弁からガスが漏れて引火する	10
⑤ タンクの燃料給油口からガスが漏れて引火する	11
⑥ ポンプから燃料が逆流する (No.625の場合)	12
⑦ ポンプで加圧しても圧力がかからない (No.625の場合)	13
⑧ 燃焼中の炎が赤い	14
⑨ 炎が片よって出る	14
⑩ ハンドル AB-2 を閉じて消火しても、いつまでもノズルから小さな火が出て消えない	15
⑪ 掃除針 (No.625の場合は A-32、No.725 では B-19) が外に出てこない	16
⑫ 新品なのにヘッドとタンクの接合部やハンドルの基部などからガスが漏れて引火する	16
No.625、No.725 の新旧部品の見分け方	17~19

はじめに

コンロが燃焼するには、燃料・火種・酸素の三つの条件の揃う必要があります。ホエーブスの燃料にはガソリンか灯油を使います。(No.725はガソリン専用です。) ガソリン・灯油は熱を加えることにより液体から気体に変化し、酸素と混合されて燃焼しますが、その時の酸素量に対し燃料が1.4～7.6%の間を保てないと完全な燃焼とはなりません。ホエーブスはその条件を保ちながらもなおかつ多くの部品交換を可能にした携帯用コンロです。そのためには高度の精密加工技術・品質管理を必要としますが、1918年以來の長期にわたり世界中で多大な信用を頂いています。

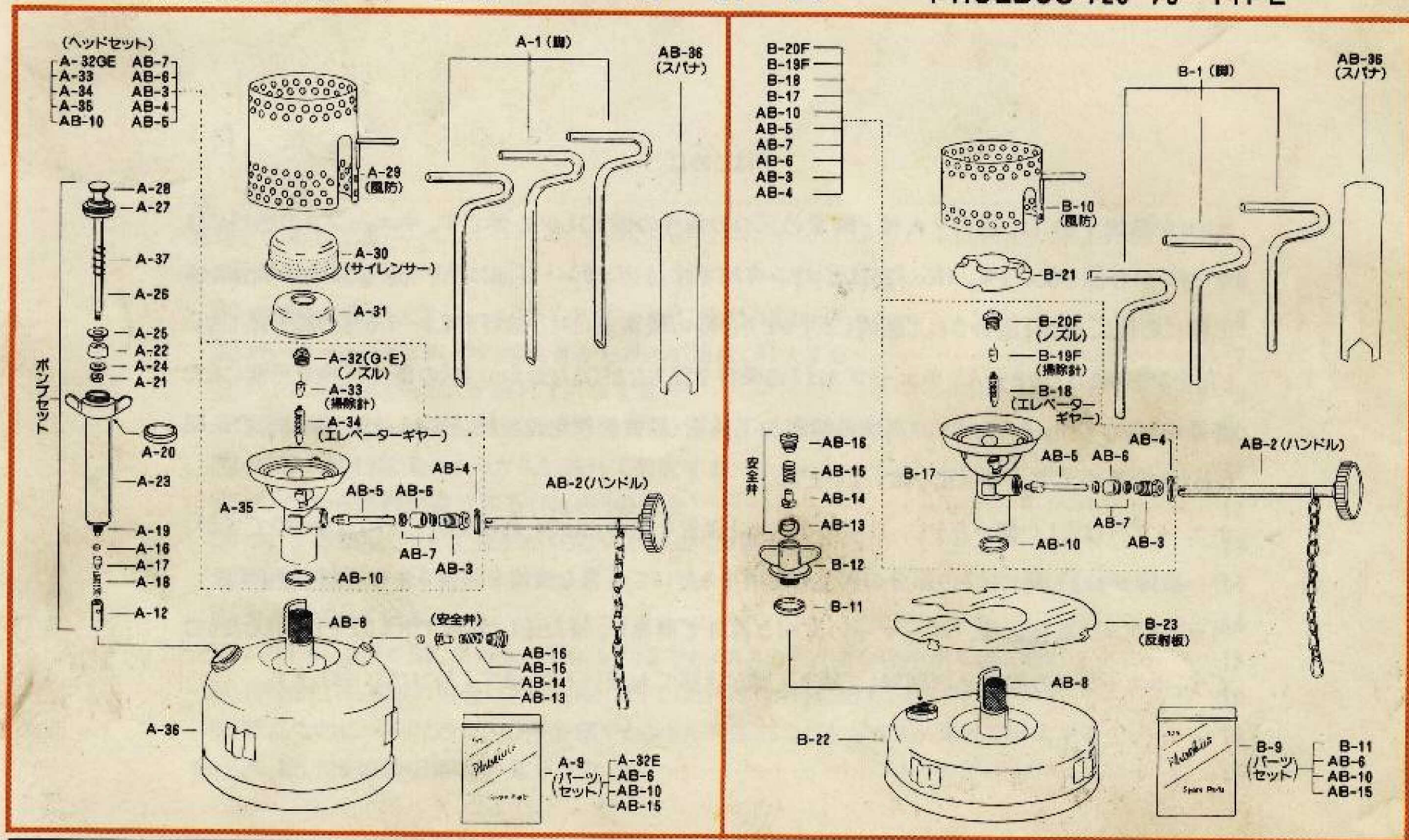
ホエーブスは正しい使い方をし、日頃の手入れと保管を充分にしていれば殆んど故障はないのですが、万一故障がおきた時にはその部分の部品を交換するだけで正常な機能を回復させることができます。

当マニュアルは販売店様、ユーザーの方がご自身で簡単に、また正しく修理できることを目的としたものです。ホエーブスの機構をよく理解して頂き完璧な状態でお使い下さいますようお願い致します。

PHOEBUS 625 '79~TYPE

<分解図>

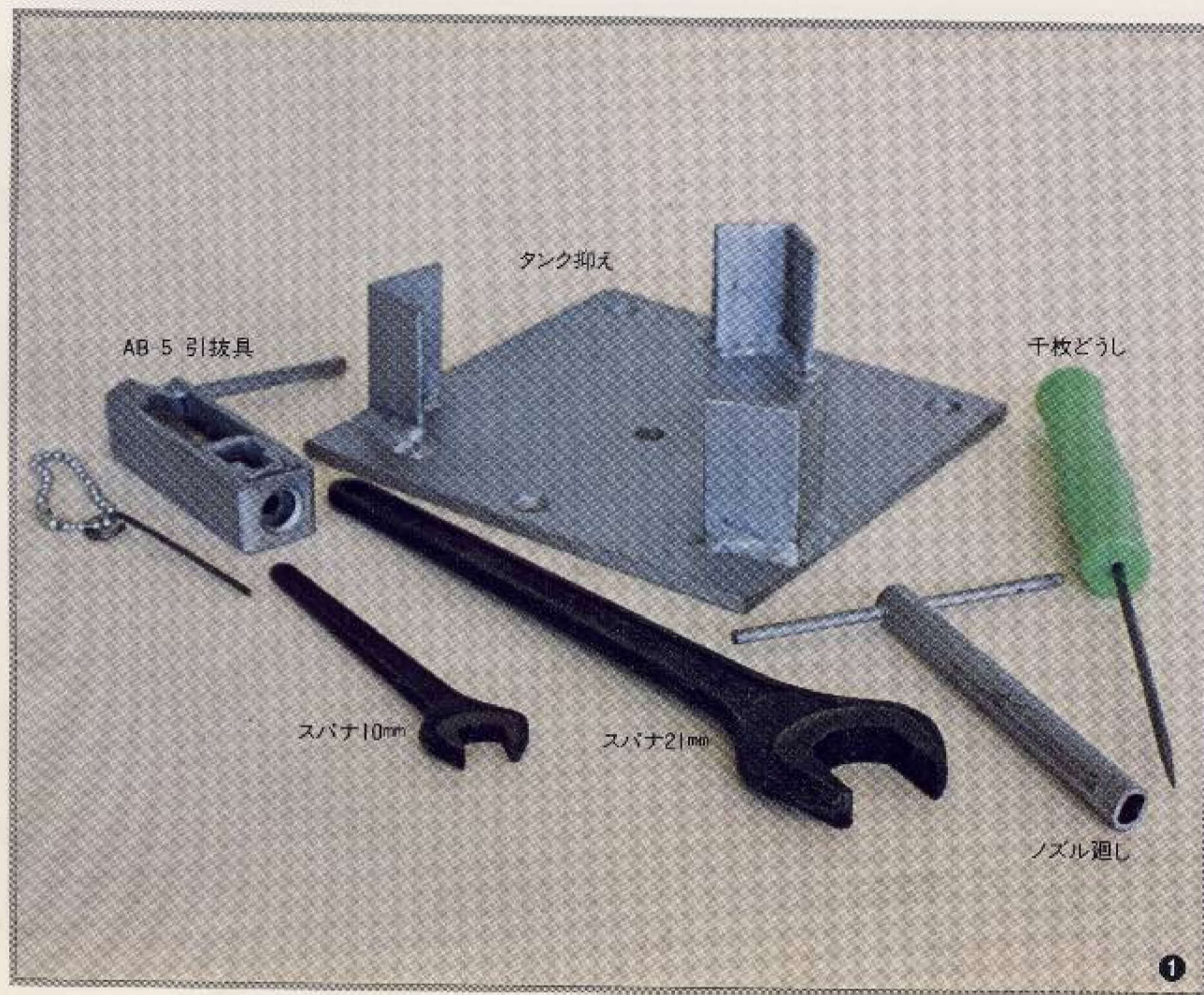
PHOEBUS 725 '79~TYPE



	No.625	No.725
新型の部品で旧型に使えるもの	A-1・12・16・17・18・19・20・21・24・27・28・29・30・31・32・37 AB-2・4・5・6・7・13・14・15・16	B-1・10・11・12・20F・21・23 AB-2・4・5・6・7・13・14・15・16
新型の部品で旧型に使えるもの	A-22・23・25・26・33・34・35・36 AB-3・8・10	B-17・18・19F・22 AB-3・8・10
旧型の部品で新型に使えるもの	A-1・12・16・17・18・19・20・21・24・27・28・29・30・31・32・33・37 AB-2・4・6・7・13・14・15・16	B-1・10・11・12・19F・20F・21・23 AB-2・4・6・7・13・14・15・16
旧型の部品で新型に使えるもの	A-22・23・25・26・34・35・36 AB-3・5・8・10	B-17・18・22 AB-3・5・8・10

■ 修理に必要な工具

ホエーブス修理工具セット



- イ、21mmのスパナ⇒A-36、B-22からA-35、B-17を脱着する時。
- ロ、10mmのスパナ⇒AB-3をA-35、B-17から脱着する時。
- ハ、大きめのマイナスドライバー ⇒ A-12、AB-16を脱着する時。
- ニ、ペンチ⇒ノズル、掃除針、A-21を脱着する時。
- ホ、千枚どうし⇒ゴムパッキン、鉛パッキンをかき出す時。
- ヘ、その他⇒手を傷めないように軍手を用意して下さい。また接合部が固く締まっているとなかなかとれませんので、接合部をあたためるトーチがあれば便利です。
- ト、エバニューでは容易に修理、点検ができるホエーブス専用修理工具セットを別売りしております。タンク抑え、ノズル廻し、AB-5引抜具は他で手にはいりませんので是非とり揃えられるようにお勧めいたします。特にノズル廻しはA-19脱着には欠かせない工具です。

1 燃焼中に炎が大きくなったり、小さくなったり、時々消えたりする。

原因

- イ、ノズル（燃料噴出口）にゴミがつまっている。
- ロ、ゴミや不純物の混じった燃料を使用したために、コンロが消化不良を起こしている。
- ハ、ホワイトガソリン以外の燃料を使用したか、手入れなどの整備がなされていないため、内部にカーボンなどのカスが残っている。

修理（処置）の仕方

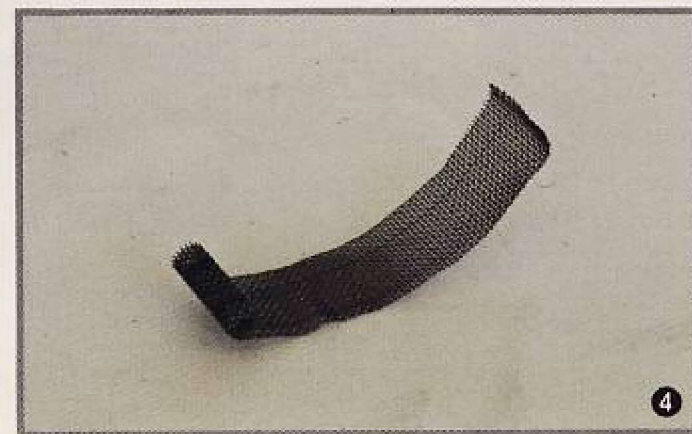
- イ、火力調節ハンドル（AB-2）を時計の針と逆の方向に廻して、掃除針でノズルのゴミを外に押し出してやります。
- ロ、ゴミの混じった燃料をタンクから抜きとり、ガーゼなどできれいにこした燃料でタンク内を洗ってから燃料を入れ替えます。
- ハ、内部にたまっているカーボンなどはガソリンなどでよく洗う。とくにタンクの上部に内装されている金網 AB-8 をほぐして洗います。



タンクをしっかりと固定し、時計の針と逆の方向に廻す。この時トーチで接合部を温めてから廻すと楽です。写真のようにタンク抑えを使用する場合、タンク抑えはネジなどでしっかりとテーブルに固定させます。→ ②



AB-8はタンクを逆さにすると出てきます。もし出てこない時は千枚どうしで引き出します。→ ③



ほぐした状態の AB-8。→ ④

② バーナーヘッドとタンクの接合部からガスが漏れ、引火する。

原因

修理(処置)の仕方

イ、ヘッドとタンクがゆるんでいる。

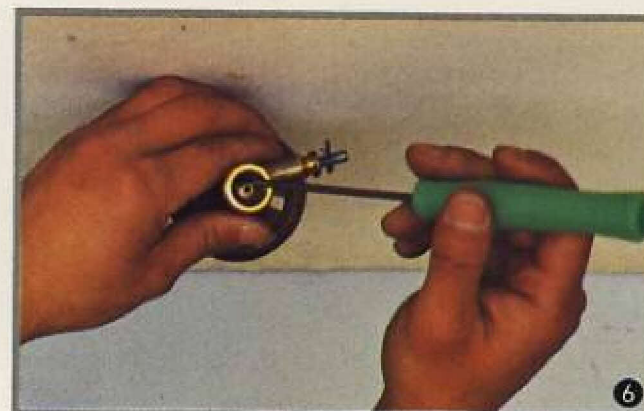
イ、ヘッドを締めなおします。



時計と同じ方向に廻します。→ ⑤

ロ、パッキンAB-10が疲労限界になっている。

ロ、ヘッドとタンクとをはずし(写真2)、AB-10を交換します。



千枚どうしなどでパッキンAB-10をきれいにかきだします。→ ⑥

③ ハンドル基部からガスが漏れて引火する。

原因

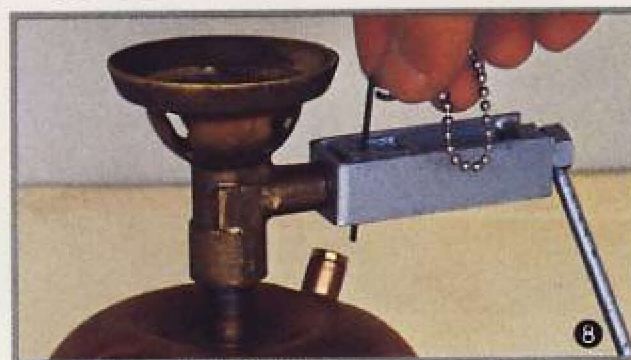
- イ. ハンドル基部の六角ナットAB-3がゆるんでいる。
- ロ. ハンドル基部内装の鉛パッキンAB-6が疲労限界に達している。

修理(処置)の仕方

- イ. AB-3をスパナなどで締めます。→ ⑦
- ロ. パッキンAB-6を交換します。



AB-3をゆるめてとりはずします。→ ⑦



ハンドル軸AB-5を抜くために、AB-5抜取具を装着します。AB-4の穴にストッパーになるピンを差し込みます。→ ⑧



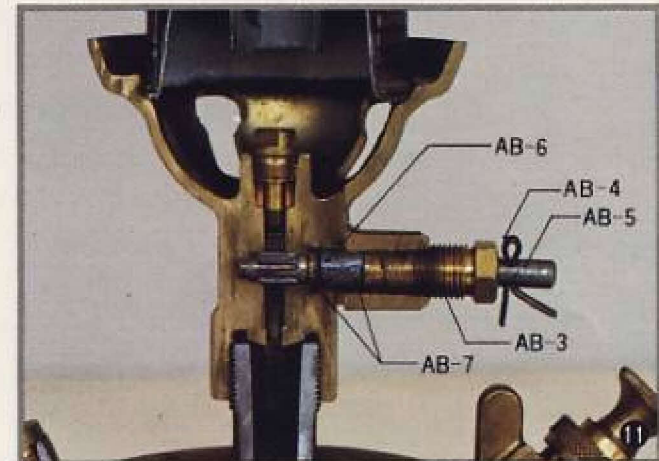
AB-5引抜具の胴体部を片手で保持し、AB-5引抜具のハンドルを時計の針と逆方向に廻すとストッパーピンが効いてAB-5が抜けます。→ ⑨



原因

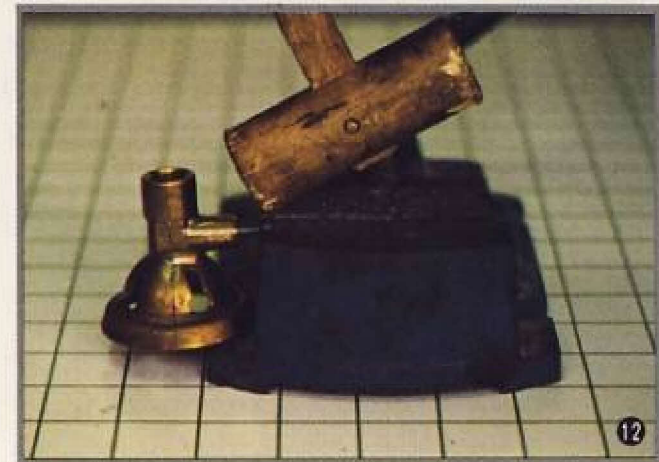
修理(処置)の仕方

一度 AB-5 を引き抜いたら AB-6 はその時の摩
 つて傷つきますので新品と交換して下さい。
 あらためて装着する時には、事前にヘッド側内部
 のネジに残っている AB-6 のカスをよくとり除いてか
 らにして下さい。



AB-5 抜取具がお手許にない場合は、AB-3 をは
 ずした後 AB-5 を万力でくわえ、ヘッド側を木ハン
 マーで軽く叩きながら徐々に抜いて下さい。この時
 に接合部をトーチで少し温めると楽にできます。

→ 12



④ 使用中安全弁からガスが漏れて引火する。

原因

イ. 内部の圧力が必要以上に高まり、危険が生じたため。

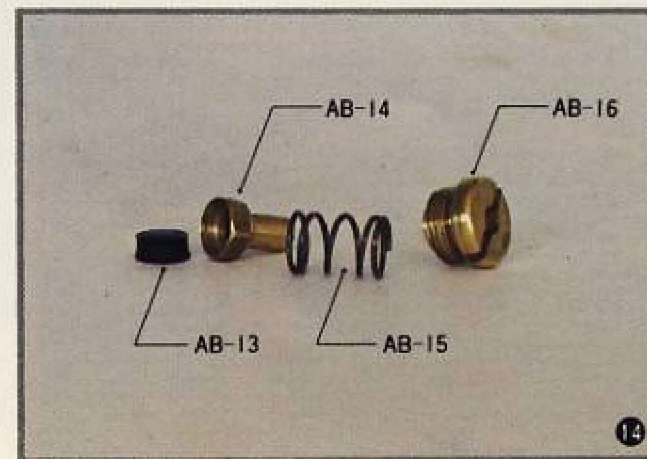
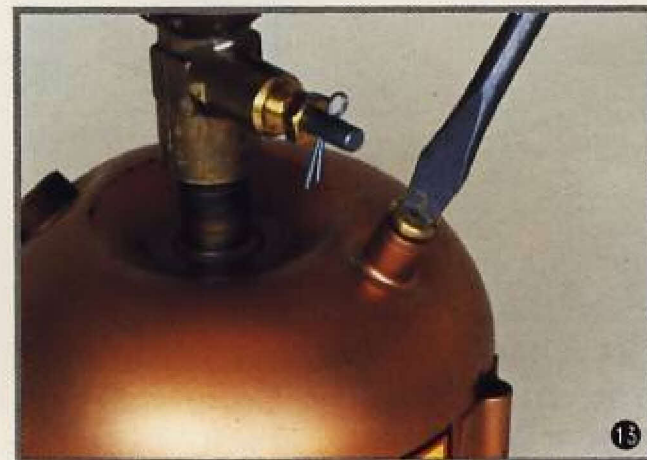
ロ. 内装のスプリングAB-15及びゴムパッキンAB-13が疲労限界に達している。

修理(処置)の仕方

イ. すみやかにバーナー及び安全弁の火を消して冷やします。冷やした後注油口のキャップをゆるめて圧力を抜きます。再度使用する場合、再び必要以上に圧力が増えないように濡れタオルを敷くなどの配慮して下さい。

※ ホエーブスはヒマラヤなど極寒地での使用にも充分通用するように設計されています。そのため、特に圧力の調節ができない自動加圧式のNo.725は、タンクの放熱をおこなってやるのはいうまでもなく、使用する鍋の大きさに充分注意し、またタンク上の反射板(B-23)は常に磨いた状態を保たせて下さい。タンクと反射板の間隔は5~10mmが適当です。

ロ. マイナスドライバーでAB-16をはずし、内装を取り出して疲労限界に達しているかどうかを調べます。弾性がなければ交換して下さい。その時にゴムパッキン(AB-13)がAB-14の受け皿にきちっとはまっているかを確認して下さい。→⑬



⑤ タンクの燃料給油口からガスが漏れて引火する。

原因

- イ. キャップがゆるんでいる。
- ロ. ゴムパッキン (No.625はA-20、No.725ではB-11) が疲労限界に達している。

修理(処置)の仕方

- イ. キャップを締めなおす。
- ロ. ゴムパッキンを千枚どうしてとり出します。疲労限界の見分け方は、先端の尖った金属でゴムパッキンを押して調べます。弾力性があるならまだ使用でき、固くなっていれば交換して下さい。→ ⑬



⑥ ポンプから燃料が逆流する(No.625の場合)。

原因

イ. 逆流防止用ゴム弁A-16
かスプリングA-18が疲
労限界に達している。

ロ. A-16とポンプノズルA-19
との間にゴミがつまってい
る。

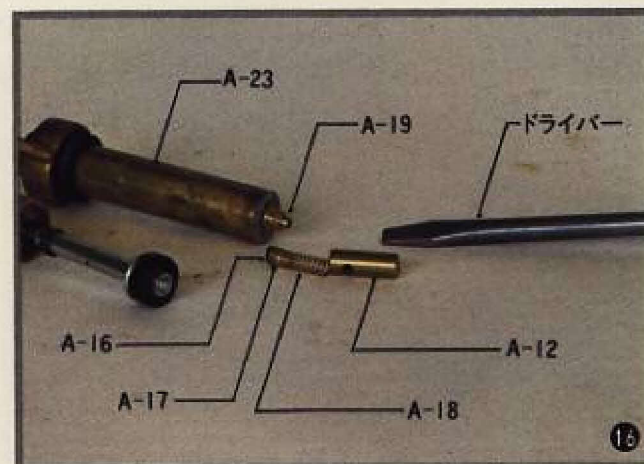
ハ. A-19の穴が壊れている
か、ゴミがつまっている。

修理(処置)の仕方

イ. ポンプ先端 (A-12) をマイナスドライバーではず
し、A-16、A-18を交換します。→ ⑬

ロ. A-16、A-19を掃除します。A-16が傷ついている
場合には交換して下さい。

ハ. A-19をノズル廻してはずし、壊れている場合は交
換し、ゴミがある場合は掃除をします。→ ⑭



7 ポンプで加圧しても圧力がかからない(No.625の場合)。

原因

- イ. 皮パッキンA-22が乾燥している。
- ロ. ゴム弁A-16がポンプノズルA-19に密着してはならない。
- ハ. 皮パッキンA-22を止めているナットA-21がゆるんでいる。
- ニ. 皮パッキンA-22が耐摩耗限界に達している。

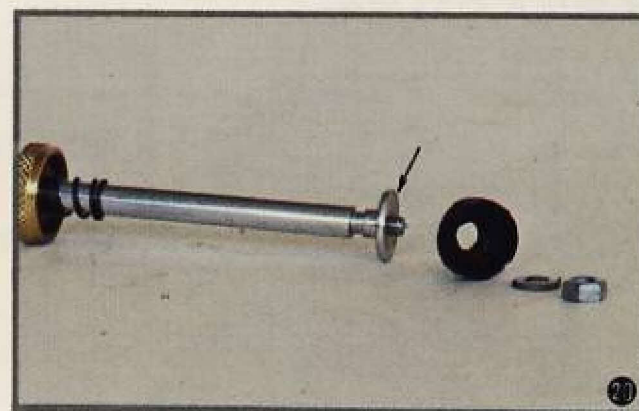
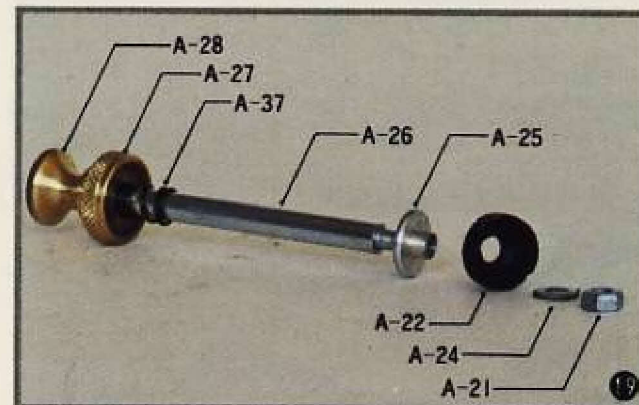
※1979年以降生産の新型ホエーブスに古い皮パッキンA-22をとりつける場合には、ワッシャーA-25の向きを反転させて下さい。

修理(処置)の仕方

- イ. オイルやバターなどを皮パッキンに塗ってやります。A-23に入れる時に皮パッキンを少し広げるようにして下さい。
- ロ. 長期間使用しなかった場合に考えられるケースです。一度タンクからポンプをはずして強く圧力をかけて下さい。それでもポンプが作動しない場合は、密着しているA-16をはずして交換をします。
- ハ. ペンチでA-21を締めなおします。
- ニ. 使用不能のA-22をポンプ内から完全にとり去り、新しいA-22にオイルやバターなどの油を充分に含ませてとりつけて下さい。



ヘッドとタンクの接続形状によって新旧ホエーブスの見分けができます。



A-25 のつばが皮パッキン A-22 に接する側に用いますと、新型ホエーブスに旧型 A-22 がとりつけられます。→ ②

⑧ 燃焼中の炎が赤い。

原因

- イ. 新品の製品の場合、メッキや塗料がはげてガスとともに燃えている。
- ロ. 環境が酸欠状態になっている。
- ハ. 燃料の中に不純物が混じっている。
- ニ. パーナー部にカーボンなどが付いている。

修理(処置)の仕方

- イ. はげかかっているメッキなどは針金ブラシで完全に取り去ります。
- ロ. 換気をよくします。
- ハ. きれいな燃料と入れ替えます。 → 6 頁参照
- ニ. ガソリンなどで汚れを洗いおとします。 → 6 頁参照

⑨ 炎が片よって出る。

原因

- イ. ノズルの穴にゴミが詰まっている。
- ロ. ノズルが長期の使用により変形している。

修理(処置)の仕方

- イ. ゴミを掃除針でとり除きます。
- ロ. ノズル廻しによりノズルをとりはずして交換をします。
→ ⑪



10 ハンドルAB-2を閉じて消火しても、いつまでもノズルから小さな火が出て消えない。

原因

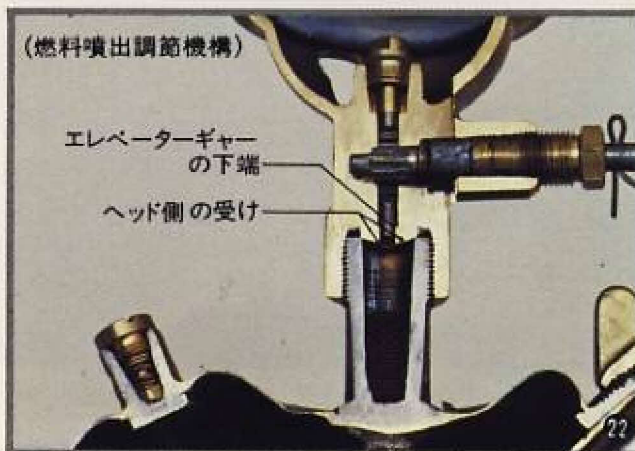
イ. ハンドル軸AB-5とエレベーターギヤー (No.625 はA-34、No.725ではB-18) がうまく噛みあっていない。

ロ. エレベーターギヤーの下端 (燃料噴出調節機構) かその受け機構 (ヘッド側にある) の変形、破損がある。

修理 (処置) の仕方

イ. AB-5引抜具によりAB-5を引き抜き、A-34を装着しなおします。AB-5を引き抜きますと鉛パッキンAB-6 が傷つきますのでAB-6を新しいものと交換して下さい。

ロ. AB-5を引き抜き、ノズル側からエレベーターギヤーをとり出して交換します。ヘッド側の受けが変形、破損している場合にはヘッドを交換します。



エレベーターギヤーを再装着する際は、ギヤーの面をAB-5と噛みあわせる向きにして下さい。

⑪ 掃除針 (No.625の場合はA-33、No.725ではB-19F) が外に出てこない。

原因	修理 (処置) の仕方
イ. いきおいよくハンドルを廻したために、針がノズルの内部で折れたり曲ったりしている。	イ. ノズル、掃除針とも交換します。掃除針だけ交換しても、ノズルに前の針がつまっていることもありますので両方交換して下さい。 ※ エレベーターギヤーと掃除針はネジでつながっています。はずす時はエレベーターギヤーを保持して、ペンチで掃除針を時計の針と逆方向に廻します。

⑫ 新品なのにヘッドとタンクの接合部やハンドルの基部などからガスが漏れて引火する。

原因	修理 (処置) の仕方
イ. 各部に内装されているパッキンが燃収縮する性質をもっているため。	イ. 使用しはじめてから数回は各部を締めなおします。

ホエーブス No.625、No.725 の新旧部品の見分け方

※ 写真の左側が1979年以降の新型で、
右側がそれ以前の旧型です。

● ヘッド部



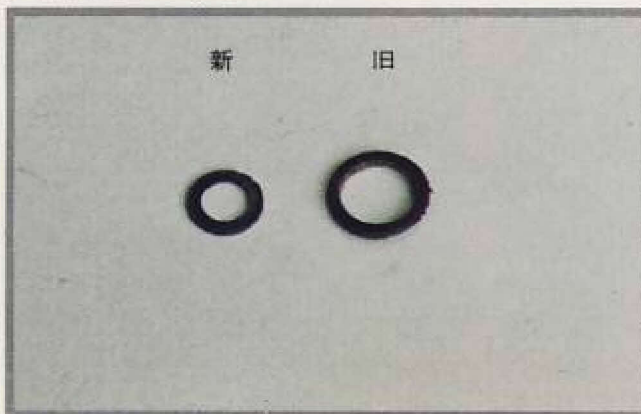
新型は、旧型よりも胴が太く、内ネジがきいてある。

● No 625タンク (A-36)



新型は、旧型よりも筒が細く、外ネジがきいてある。

● AB-10



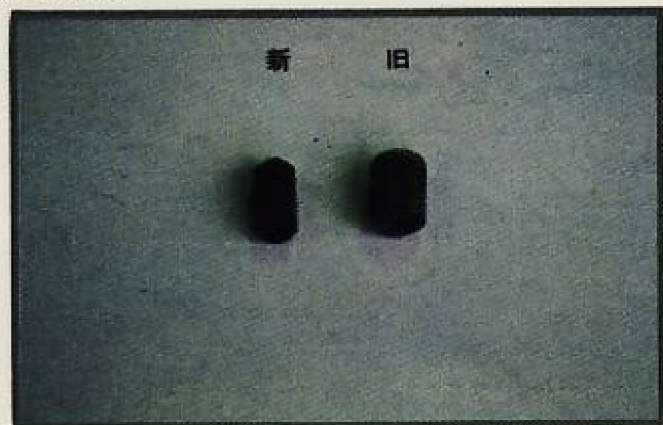
新型は、旧型よりも小さい。

● No 725タンク (B-22)



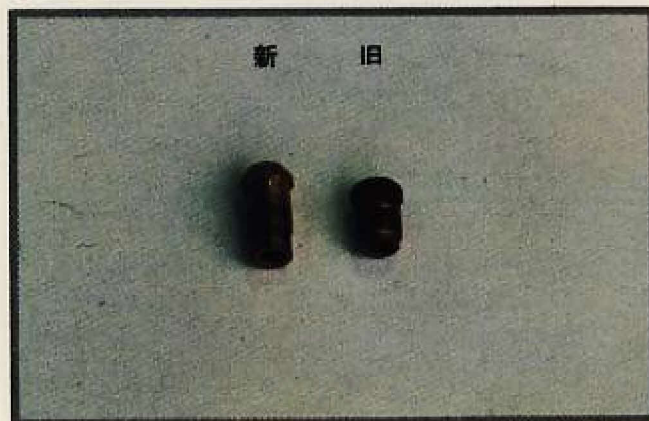
新型は、旧型よりも筒が細く、外ネジがきいてある。

●AB-8



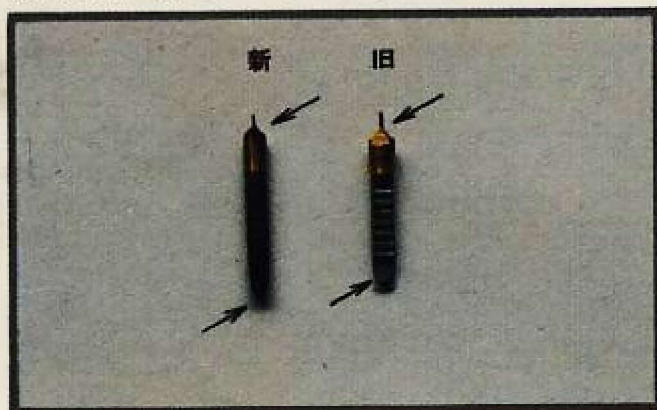
新型は、旧型よりも径が細い。

●AB-3



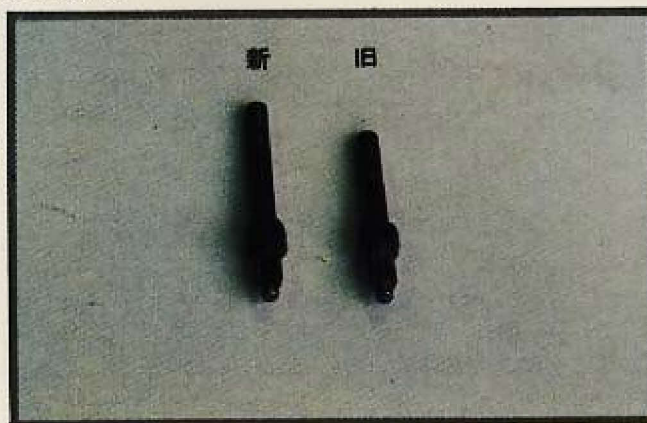
新型は、旧型よりも全長が長い。

●A-33、A-34 B-19F、B-18



新型のA-33、B-19Fは、ストレートですが、旧型は上広がりです。新型のA-34、B-18は、下が円錐です。

●AB-5



新型は、旧型よりも全長が長い。

●A-23



新型の羽根は、丸味がありますが、旧型は角ばっている。

●A-25



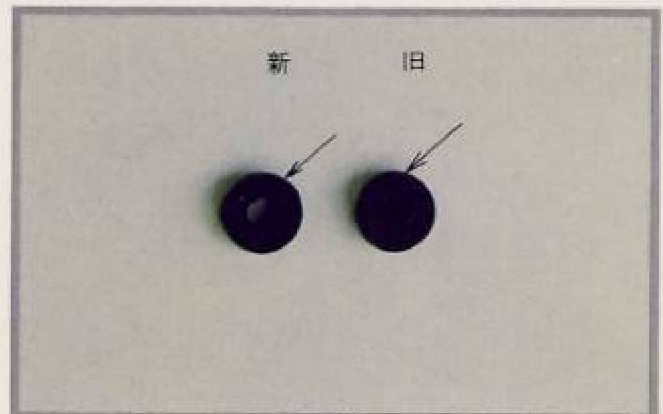
新型は、つば付き。

●A-26



新型は、先端のネジが長くなっている。

●A-22



新型は、旧型よりも穴が大きい。

御不明の点がございましたら、株エバニューまでお問合せ下さい。



株式会社 **エバニュー**

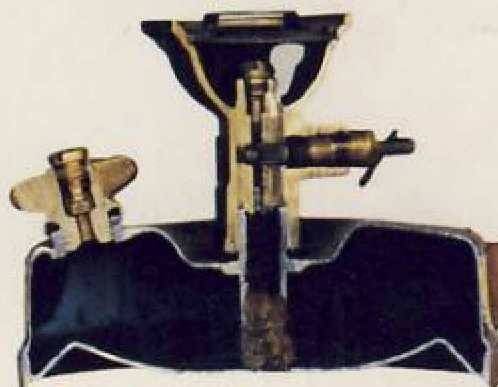
本社 〒135 東京都江東区木場6-4-38 TEL(03)649-4711

大阪営業所 〒542 大阪市南区大宝寺町東之丁14 三商ビル内 TEL(06)281-1235

札幌営業所 〒064 札幌市中央区北3条西20丁目 佐々木ビル内 TEL(011)644-3188

名古屋出張所 〒460 名古屋市中区栄3-23 TEL(052)242-2290

EVER NEW INC U.S.A. 6124 NAGLE AVENUE, VAN NUYS, CALIF 91401



JUNE 1981 PRINTED IN JAPAN EVER NEW INC.